

二〇二二年五月一七日(参加者一四名十欠席投句一名)

吹く風にしばらく薔薇の香をまとふ	素	秀
リュックの背反らせてくぐる薔薇アーチ	素	秀
薔薇を剪る鋏に迷ひなかりけり	素	秀
園丁の薔薇の鋏の潔し	素	秀
離陸機のいま巡回す花樽	明日香	明日香
大空へ楓の若葉の幾重にも	明日香	明日香
梅天の日輪白く滲みけり	明日香	明日香
青蔦がすつぽり覆ふ古墳かな	ぼんこ	ぼんこ
薔薇アーチ花卉を散らす石畳	ぼんこ	ぼんこ
身体より大きなリュック遠足児	ぼんこ	ぼんこ
夢叶ひさうな真つ赤な薔薇アーチ	小袖	小袖
夏衣さりときなし太極拳	小袖	小袖
大空に溶けいりさうや花樽	たか子	たか子
まくなぎの虜となりし古墳道	たか子	たか子
色ごとに陣を分かちぬ薔薇の苑	豊実	豊実
色変はるたび歩の緩む薔薇の苑	豊実	豊実
むらさきにけぶる空あり花樽	もとこ	もとこ
万緑を砦としたる古墳かな	もとこ	もとこ

古墳へと広枝差し掛く花樽	わかば
曇天にまぎれて淡し花樽	わかば
オフィーリアのドレスとしたし白薔薇	よう子
梅天や古墳覚めよと飛機の音	よう子
薔薇の虻みもだえてをる花心かな	うつき
薔薇薫るコロナマスクを外したし	なおこ

二〇二二年五月一七日(参加者一四名十欠席投句一名)

定例句会みの選